

## 国民対話推進会議 議事概要

1. 日 時 平成19年12月13日（木） 9：00～9：22
2. 場 所 総理大臣官邸 小ホール
3. 出席者 大野議長、山本副議長、各府省副大臣等  
川上 和久 明治学院大学法学部教授  
萩原なつ子 特定非営利活動法人日本NPOセンター常務理事
4. 討議要旨

冒頭、大野議長よりあいさつの後、「国民との直接対話の推進に関する基本方針」が改正され、国民対話の名称を

「大臣と語る

希望と安心の国づくり」

とし、当会議の名称も「国民対話推進会議」としたことを報告。

事務局から、「少子化対策について」と「信頼される学校づくりについて」の開催報告と対話参加者からの意見等のフィードバック状況、及び「美しい森林づくり」の開催報告を行った。また、今後開催する「地域医療の充実」、「快適な都市環境の創造に向けて」の予定を説明した。

大野議長から、20年3月以降に開催する国民対話の候補テーマに関し、「地方再生について（内閣官房）」「道州制について（内閣官房）」「我が国の知的財産戦略について（内閣官房）」「利便性の向上や活力ある地域づくりに貢献する科学技術（文部科学省）」「国際的な食料事情の変化に対応した食料の安定供給のあり方（農林水産省）」「国産バイオ燃料の生産・利用拡大—稲わらなどを原料とした日本型バイオ燃料の生産、利用の促進—（農林水産省）」の6件に対する開催希望、及びその他のテーマの開催希望について国民から意見を募集し、次回の国民対話推進会議で開催テーマを決定する旨説明し了承された。

主な自由討議は以下の通り。

松浪文部科学副大臣）すでに開催した3回の国民対話の費用はいくらだったか。

事務局）会場費などの直接経費は、第1回88万円、第2回92万円、第3回93万円。

この内、内閣府ホームページで公開する動画の作成費用が60万円程度かかっている。

川上氏）国民対話の参加者からの質問や意見について、ホームページではフィードバックでアップされているが、なかなか広く認知されないのが現状だ。いろいろな方法で、

フィードバックを丁寧にやっていることを一般の方々に知ってもらう努力が必要だ。  
西川厚生労働副大臣) お金をかけないでまじめにきちんとやっているが話題にならない。  
広報やPRに一考を要する。マスコミにうまく乗せて国民に国民対話のことを伝える  
ことを考えるべき。

萩原氏) 国民対話の運営のことで、今回は内閣府と各省庁ということだが、タウンミー  
ティングの見直しの検討委員会の時に、市民の意見を正確に反映するということから、  
NPOと協働で共催をするということが入っていたように思う。各地域で開催テーマ  
によっては是非、検討してほしい。

川上氏) 基本方針にあるように、ある程度回を重ねた段階で運営のあり方についてプラ  
ンドゥーシーでチェックした上で、新たに検討するという機会をどこかで設けていた  
だきたい。

森山財務副大臣) 先般鹿児島で税関と環境省の共催でシンポジウムを開いた。人が集ま  
るかなと思っていたら450人近い人が集まった。視点が違うが、結構、国民は関心  
があるのだなとびっくりした。

以上